

(仮称) 音楽・芸術ホール整備計画 (要約版)

第1章 新しいホールの整備方針

新町西地区市街地再開発事業の公共公益施設として、新ホールを整備する上で、音楽・舞台芸術の担い手やそれを鑑賞する市民の立場から、ホールの役割や機能、さらには新しい運営管理について考え方を検討し、明らかにしておく。

1 基本理念及び基本方針

『市民の芸術文化の創造拠点』

・ 芸術文化の創造活動の支援 ・ 芸術文化の交流の推進 ・ 芸術文化の鑑賞機会の提供

2 基本機能 (略)

第2章 施設運営 (略)

第3章 施設整備

1 基本的な考え方 (略)

2 施設構成

- ・ 特色のある2つのホールゾーン (大ホール、小ホール) の整備
- ・ 市民が創造活動を行う場、様々な地域や人々の交流する場として、創造支援・交流スペースを機能的に配置

3 施設計画

○大ホールゾーン

- ・ 席数は、1200席以上を確保
- ・ 音楽、ミュージカル、舞踊、オペラ、大型演劇など、様々な音楽・舞台芸術に対応し、大型の公演の鑑賞が可能
- ・ 多様な舞台芸術に対応するプロセニウム形式の舞台設定を基本、音響反射板の設置も可能
- ・ 主舞台と側舞台を備え、客席前部には、オーケストラピット (60人程度が収容可能) せりを設置。舞台のせりや脇花道の設置に配慮

○小ホールゾーン

- ・ 客席数は、200席以上を確保
- ・ 客席を格納することにより、舞台位置が自由に配置でき、自由で多彩な表現が可能となるよう整備
- ・ 客席を格納することにより、平土間の空間としてリハーサルにも利用できるよう配慮

○創造支援・交流スペース

- ・ 自主的な創造活動のほか、セミナー、発表会、人材育成の場としての活用を想定
- ・ 作品創造や少人数の発表会等ができる練習室、ワークショップ室、音楽の練習などができるスタジオ等の活動室を整備
- ・ 交流スペースは、落ち着いてくつろげる雰囲気となるよう配慮
- ・ 機能的で、交流の場として活用できるロビーの整備に配慮

4 施設規模

区分	施設名	内容	想定規模
ホールゾーン	大ホール等	客席（1200席以上）、舞台、ホワイエ、楽屋等	5,200㎡程度
	小ホール等	客席（200席以上）、舞台、ホワイエ、楽屋等	600㎡程度
	ホール共通	搬入搬出口・荷捌き、楽屋エントランス、倉庫等	1,600㎡程度
創造支援・交流ゾーン	練習室・スタジオ・ワークショップ室等	練習室、スタジオ、ワークショップ室、交流スペース	730㎡程度
	受付・事務スペース		200㎡程度
共通部分	エントランス、ロビー、廊下、バックスペース、設備関係等		2,670㎡程度
合計			11,000㎡程度

5 施設整備の基本的配慮

(1) 遮音

各ホールゾーン及び創造支援・交流スペースは、外部からの音の影響を受けないよう遮音性能を確保する必要がある。

(2) 動線処理

各ホールゾーンでは、観客と出演者の動線を独立して確保。各ホールの開演及び終演の時間等を想定し、人の出入りに不都合のない動線が確保できるよう配慮。

(3) 搬入搬出

大道具や衣裳、上演に必要な各種機材などの物品の搬入搬出については、大型トラック（11tロングガルウイング車を想定）に対応できる搬入搬出ルートを確認。搬入搬出用設備を介して舞台階に荷揚げすることが想定されることから、大型エレベーターを設置。

(4) セキュリティ・防災

安全性や防災性能について十分に配慮し、特に楽屋エリアへの出入りは十分に監視できるよう工夫。大勢の観客や来館者の誘導を安全に行える避難動線の確保

(5) 良好な外観の確保

徳島市のシンボルロードである徳島駅前から眉山にいたる50m道路に面し、新町川にも近接しているため建物の外観は周辺の環境と調和し、市民に親しまれるものとする。

(6) 環境配慮

ゴミをできるだけ少なくする工夫や施設全体の省エネルギー対策を進める。

(7) ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインに配慮し、客席やトイレ、廊下などには、スロープや手すり等を設置。高齢者や児童、障害者だけでなく、市民の誰もが安心して快適に利用できる施設とする。